

紫峰の風

shihou no kaze

筑波大学

University of Tsukuba

第22号 2021年12月

「紫峰の風」は学生生活の様子や活動の報告を紫峰会基金協力者の皆様にお届けする広報誌で、紙面の企画や記事の取材等は学生広報会議や広報部会の学生が実施しています。この名称には「筑波の峰から吹き降りる風に、我々の活動への想いを乗せて、全国の皆さまのもとへお届けする」という意味が込められています。



写真左上から:学園祭を下支える実行委員/公式ホームページ/来場者が自由に落書きできる芸術祭企画/双峰祭公式キャラクター「そぼたん」/無観客で行われた後夜祭/オンラインステージ企画生配信部門の様子/指先で歩くをコンセプトとする芸術祭

オンライン学園祭を終えて

第47回筑波大学学園祭「双峰祭」は11月6日と11月7日の2日間、開学以来初のオンラインで実施され大きなトラブルもなく終えることができた事、大変嬉しく思っております。学園祭実行委員の全員が、学年の垣根を越えて初めての業務にも臆さず挑む姿にひとり感動しておりました。これらは全て、企画団体・来場者の皆様・筑波大学紫峰会基金に寄附していただき皆様にご支援いただいた保護者の皆様のお力添えがあつたことです。皆様のお力添えがあつたからこそ前例のないオンライン開催でも多くの方にご来場いただき、盛大に学園祭を終えることができました。委員長として感無量でございます。本当にありがとうございました。

初のオンライン開催であることだけでなく昨年は学園祭が中止

—内容—

キャンパスニュース、就職活動を終えて	1頁
筑波大学の就職支援、Editors'2021、特別援助金報告、学生相談室から、桐の葉日記、筑波大学紫峰会基金運営委員会の報告	2頁
特集	3頁
全代会、文サ連、芸サ連、体育会活動紹介	3、4頁
学生の一週間、紫峰ギャラリー	4頁

だったこともあり、委員会にかかるプレッシャーは大きなものでしたが、対面開催に勝るとも劣らない学園祭が実行できたことと自負しております。来年度以降の開催形態は不明ですが、よりパワーアップした学園祭が開催されることと存じますので、引き続き応援・ご支援いただけますと幸いです。

(寄稿/令和3年度筑波大学学園祭実行委員会委員長 芳賀力・日2年)

今後の主な予定(変更になる場合があります)

秋ABモジュール期末試験	12月22～28日
冬季休業	12月29日～1月5日
同(東京キャンパス・夜間)	12月26日～1月3日
秋ABCモジュール期末試験	2月4、9、10、14、15日
同(東京キャンパス・夜間)	1月21、27、29日、2月1、2日
秋Cモジュール期末試験	2月16、17日
秋学期授業終了	2月15日
同(東京キャンパス・夜間)	1月26日
期末試験予備日(東京キャンパス・夜間)	1月28日、2月3、4日
春季休業	2月18日～3月31日
同(東京キャンパス・夜間)	2月5日～3月31日
卒業式・大学院学位記授与式	3月25日
同(東京キャンパス・夜間)	3月26日

紫峰会基金に寄附して下さった皆さまへ

新型コロナウイルス感染症の対策対応中にもかかわらず、多くのご寄附をいただきありがとうございます。皆さまからいただいたご寄附の全額を課外活動団体援助金等として使用させていただいております。援助金のおかげで活動にかかる負担が減り、学業や課外活動をより充実させることができました。現在課外活動は、通常通りの運営はままならないながらも、出来る限りの感染対策の徹底と注意喚起を講じながら精一杯取り組んでいます。今後も変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

課外活動団体一同

キャンパスニュース

東京2020オリンピック・パラリンピック競技結果

2021年7～9月にかけて行われた東京2020オリンピック・パラリンピックでは、様々なアスリートの奮励する姿に日本中が活気づけられました。本学の在学生および関係者の出場選手が活躍したことはご存知だったでしょうか。

ここでは、在学生の試合結果と、在学生の方のコメント(インタビュー記事より抜粋)を掲載しています。インタビューの全文は右のQRコードからご参照ください。

つばスポーツOnline http://tsa.tsukuba.ac.jp/report/tokyo_interview/

インタビュー全文



オリンピック

(在学生5名)

〇名前

1. 試合結果

2. インタビュー記事より抜粋

(1) オリンピック・パラリンピックで戦った感想

(2) 大学院生: 本学大学院へ進学してオリンピック・パラリンピックを目指し、出場された意義は? / 学群生: 研究活動がどのように生かされているか

〇榎本 遼香

(人間総合科学研究科体育学専攻2年)

1. 水泳 飛込

女子シンクロナイズドダイビング
3m飛板飛込 5位入賞

2.

(1) 幼少期からの夢だったオリンピックという舞台は、自分が思っていたよりも怖いところではなかったです。最高な舞台の限られたあの瞬間にピークパフォーマンスを発揮する難しさを痛感しました。

(2) 競技後の人生のほうが長い中で、私の競技経験や体験してきたことが研究の引き出しになるので、私自身も考えつつ学びつつ競技にも取り組むことができ、飛び込む1本1本を大切にできると思います。



飛込 女子 3m 飛板飛込準決勝

〇梶原 悠未

(人間総合科学研究科体育学学位プログラム2年)

1. 自転車競技 トラック

女子オムニウム 銀メダル獲得

2.

(1) 緊張しましたが、全力を出し切ることができました。

(2) 筑波大学大学院生として、出場でき、嘉納治五郎先生の教えを受けた誇りと自覚を胸に戦うことができました。学びを競技へ活かし、競技の課題を見つけたら、学びの中から克服する術を見つけ、大学での学びを常に活かしてきて、その成果をオリンピックの舞台で発揮できたと思います。



女子 オムニウム表彰式 梶原が銀メダル



自転車 女子 オムニウム ポイントレース

〇深見 利佐子

(人間総合科学研究科世界文化遺産学専攻 博士後期3年)

1. 柔道 タイ代表女子 52kg級 1回戦敗退

2.

(1) これまでの人生の中で最も緊張した瞬間であったと共に、量が上がった瞬間に



写真: 本人提供

「ほんとに夢が叶ったんだ」という感動が混じり合った言葉では表現し難い感情でいっぱいでした。

(2) やりたいことや夢はいつあってもいいと思わせてくれたのが筑波大学でした。全ての夢や本当にやりたいことは自分自身次第で、達成させることができるということを証明できましたし、今後の人生において何か新たなものに挑戦するときに自身のモチベーションになると思っています。

〇吉田 守一

(体育専門学群3年)

1. ハンドボール男子予選リーグ・グループ6位

※33年ぶり五輪勝利

総合順位11位

2.

(1) まず、子供のころからテレビで見ていた舞台に自分が立てたこと、世界を舞台に戦えた自分を誇りに思います。今回は無観客での開催だったということもあり、プレッシャーを感じすぎずにプレーできました。



ハンドボール 男子

(2) 上手くいかない時に合理的なハンドボールを心掛けています。

〇高橋 侑希

(人間総合科学研究科体育学専攻2年)

1. レスリング 男子フリースタイル57kg級 第8位

2.

(1) 子どもの頃からの夢であったオリンピックに出場が叶い、少し今までの努力が報われました。私は普段の試合はとて緊張してしまうのですが、ほどよい緊張感で挑むことができ、試合は負けてしまったものとても楽しく戦うことができました。

(2) コーチングを学びながら選手を続けたことは、私自身を客観的に見れる視野を広げてくれました。今後のコーチ生活では私自身のオリンピックまでの実践経験と実践コーチングを織り交ぜたことを、各選手に変換し高度なコーチングができるのではないかとこの期待があります。



レスリング 男子 フリー 57kg 級 1回戦

就職活動を終えて

理工学群
社会工学類 4年
西村 大希



- 所属サークル:卓球同好会
- 職種:エンタメ企業(遊技機メーカー)
- 就職活動期間:2021年2月~4月
- 就職先を決めた判断材料:

業界トップの開発力やシェア、事業内容の幅広さ、会社の雰囲気、自分の趣味を仕事にできる点

■就職活動中に心がけたこと:

元々大学院進学を考えており、ぎりぎりになり進路変更をしたため、就活生が当たり前に行っているSPI対策や自己分析などが全くできていませんでした。なのでESを書きながら同時進行で対策を講じる等、他の人の3倍ほどの速さでPDCAサイクルを回しました。その中でエンタメ企業、特に遊技機メーカーを中心に就職活動をしていたので、今の業界の問題点やどうやったら世間からのイメージ向上を図れるかなどを自分なりに常に考えて面接に臨んでいました。また、就職の面接の際によく聞かれる「今気になっているニュースは何ですか」という質問に備えて、世間一般的なニュースのほかに、業界ならではのニュースもチェックするようにしていました。

■大学生活で就職活動中役に立ったこと:

資格取得に力を入れていたこともあり、簿記、FP、宅建などの資格取得は面接の際に結果としてわかりやすく提示することができアピールにつながったのではないかと思います。また、大学で学んだ経営工学等の知識も高く評価していただけたのではないかとおも

います。大学生活というか小学生の頃からアニメやライトノベル、ゲーム、大学に入ってから遊技機などを趣味で嗜むようになり、本当に好きなことを仕事にしたいという思いを伝えることができたのも就職活動で大きく役に立ちました。

■就職活動で失敗したこと:

これと言って特にありませんが、やっておけばよかったこととして会社のグループが行っている他の事業についても深く学んでおくべきだったと思います。

■就職活動で学んだこと:

就職活動を通して「自分」というものを知ることができました。普段、何となく日々の生活を送っていますが、改めて自分の人生を振り返り自分自身を見つめなおすことで自分の強み、弱み、仕事に何を求めるのか、どう生きたいのか等を認識することができました。

■何社受けて、何社受かったか:

14社受けて 2社受かりました。

■後輩に一言:

巷では就活の情報商材等の様々な情報が出回っていますが、偽情報もあるのですべてを鵜呑みにしないでください。結局、自分の人生なので誰も責任を取ってくれません。自分のやりたいことは何なのか、今後何十年と働いていくうえで何を大事にしていきたいか。そういったことをしっかりと考え就活に臨んでください。

■保護者に伝えたいこと:

大学院進学ではなく就職をすることを決意したときに応援をもらったときは非常に心強かったです。自分の志望する業界にも理解を示してもらい、憂いなく就活に集中できました。ありがとうございます。

■大学生活で就職活動中役に立ったこと:

就職を見据えて大学生活を送っていたわけではありませんが、全代会議長として人前で論理的かつ分かりやすく話したり、教職員の方々と交渉したりした経験が結果的に高く評価されたように思います。

■就職活動で失敗したこと:

面接対策をしなかったため、面接官からの質問にも少し適切な回答ができた場面があったと後悔しています。

■就職活動で学んだこと:

採用試験受験に際して高校までの教科の学び直しをしました。これまで得た知識の再確認につながると同時に、指導する観点から高校までの学びを見つめ直す良い機会となりました。

■何社受けて、何社受かったか:

1社(1校)受け、1社(1校)から採用内定をいただきました。

■後輩に一言:

研究やサークル活動など、様々な環境を駆使して何かに打ち込んで、そこで得た経験が結果的に就活で生きるのが理想的だと思います。教員を目指している人や教職課程を履修している人へ。この業界の未来は決して明るいとは思いませんが、少しでも良い環境を目指して就活することをおすすめします。ともに頑張りましょう。

■保護者に伝えたいこと:

多くの習い事をさせてもらい、私立中高一貫校にも通わせてもらい、金のかかる息子だったと自負しています。経済的にも精神的にも多くの負担をかけてきました。そのおかげもあって、ここまでよい人生を歩めています。これからも私はやりたいことをやります。それができる職場だと思っています。せっかく地元に戻るの、遅くなりましたが少しずつ親孝行させてください。

人文・文化学群
日本語・日本文化学類 4年
瀬邊 風馬



- 所属サークル:書道部、つくば現代短歌会
- 職種:私立高校教員
- 就職活動期間:2021年3月~2021年6月
- 就職先を決めた判断材料:

就職先は私の母校です。現在の学校教員を取り巻く環境は決して良いものとは言えず、大学1年から本学の教職課程を履修していた私でも当初は教員になることに消極的でした。しかし、教職課程の履修を続けていくうちに教員としての将来を本格的に考えはじめました。当初から公立校の教員は志願しておらず、私自身のバックグラウンドからして、進学校で教育に参画する方が自分の強みを生かせると考えていました。そこで、労働環境が比較的良好かつ進学校教育に参画できるという理由で母校を第一志望に据えました。選考の結果良いご縁をいただくことができ、就職を決めました。

■就職活動中に心がけていたこと:

私立学校の教員採用情報は、各学校のホームページをチェックしなければ得ることができません。したがって、履歴書を出す可能性が少しでもある学校のホームページは頻りにチェックし、自身の希望と合致する条件の募集があるか、選考期間はどうか、何を提出するのかを見逃さないようにしました。また、特筆することでもありませんが、志願先の採用試験対策を行い、面接では正直に受け答えることを心がけました。

パラリンピック

〈在学生2名〉

○高橋 利恵子
(人間総合科学研究群障害科学学位プログラム2年)

1. ゴールボール 女子 銅メダル
- 2.

(1)正直、初戦は本当に緊張しました。「自分の実力の7割を出せばいい」と言われていたのですが、2~3割ほどしか出せていなかったと思います。本番で実力を出すことの難しさを痛感しました。本当にパラリンピックは最高の舞台で、ここで戦えたこと、金メダルに届かなかった悔しさはありますが、メダルを獲得できたことは嬉しく思います。

(2)筑波大学の多くの方々にゴールボールという競技を知ってもらえたことが大きいのではないかと思います。パラスポーツはまだまだきかけがなければ、知ること、体験することが難しいと思っています。今回、筑波大学の学生としてパラリンピックに出場させていただけたことで、大学の関係の皆様からも多くの応援や感想をいただきました。大学でもこんなに注目していただけとは思っていませんでした。本当に嬉しかったです。これからも、パラスポーツをやりたい、関わってみたいという方が増えていけるように活動していきたいと思っています。



ゴールボール 女子 準決勝



ゴールボール 女子表彰式 日本が銅メダル

○瀬立 モニカ
(体育専門学群4年)

1. 女子カヤックシングル200m KL1 決勝:57秒998 第7位 *2大会連続入賞
- 2.

(1)(二度目のパラリンピックで戦った感想)今回、自分が目標としていた結果に届かず、とても悔しい思い出となった東京大会でした。無観客ではありましたが、総じてコロナ禍において大会が開催されたことに対する感謝の気持ちが強かったです。

(2)私は自らの睡眠について研究していますが、コンディショニングのデータとしてより練習を含む競技の質に良い影響を与えています。



カヌー 女子 KL1 決勝

新型コロナワクチン職域接種(大学拠点接種)の実施

総務部リスク・安全管理課

概要

本学では、令和3年8月30日(月)~10月20日(水)に、新型コロナワクチン職域接種(大学拠点接種)を実施しました。本学に在籍する学生・教職員・その他(学内で日常的に業務を行う派遣職員、委託業者等)を対象とし、会場は学生会館を使用しました。

1日あたりの接種人数は500~1,000人で、全体としての接種人数は約8,000人(学生約7,000人、教職員約700人、その他約300人)となる見込みです。(11月5日現在)接種は、保健管理センター主動の下、附属病院の協力を得て行いました。接種会場だけでも、1日あたり40~50人の医療従事者・職員・派遣職員が従事し、合計30日間携わりました。

職域接種(大学拠点接種)が担う役割

本学も、政府からのワクチンの供給不足が影響し、当初の開始予定であった7月末から、1カ月程度遅れた開始となりました。しかしながら、学生の接種人数は約7,000人に上り、全国で課題となっている若年層の接種率向上に貢献したことが窺えます。学生の接種率が上昇したことは、集団としての抵抗力向上に繋がり、コロナ禍以前のキャンパスライフを取り戻す大きな一歩となることでしょう。

また、接種対象者として、高エネルギー加速器研究機構の教職員や、筑波技術大学の学生の受け入れを行いました。これを契機に、地域での連携した感染症対策を実施する土俵づくりが進められました。

これからの感染対策

新型コロナワクチンには、接種した人の感染後の重症化リスクを低下させる効果があることが、最近の研究結果で分かっています。また、発症予防効果及び感染予防効果があることも示唆されていますが、その一方で、いわゆる「ブレイクスルー感染」として、ワクチン接種後に感染してしまう例は少なくありません。加えて、新たな変異株の出現により、ワクチンの効果に影響が生じる可能性もあります。

ワクチンの効果を最大限発揮するためには、「3つの密」の回避、マスクの着用、手洗いや手指消毒などの基本的な感染対策を、これまでと同様に継続することが必要です。

本学では、学内での感染拡大防止に、より一層努めてまいります。今後ともご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

令和3年度筑波大学卒業式・学位記授与式(9月期)

9月24日、令和3年度筑波大学卒業式・学位記授与式が学生会館講堂で挙行されました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、式典の出席者は代表者(学位記受領代表者・副代表者、謝辞総代、副総代及び学生表彰者)のみとなりました。



卒業式・学位記授与式 学長式辞

令和3年度筑波大学秋学期入学式中止について

9月30日に開催を予定しておりました令和3年度筑波大学秋学期入学式については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止となりました。

新入生の皆様にとって、かけがえのない行事を中止とすることは大変心苦しい決断でしたが、学生の皆様の健康と安全確保を第一に考え、この結論に至りました。

就職特集 令和2年度卒業生・修了生進路状況及びキャリア形成支援について 学生部就職課

令和2年度の学群卒業生数は、2,278人でした。うち958(42.1%)人が大学院へ進学、1,097人(48.2%)が就職(研修医含む)、223人(9.8%)がその他(資格・採用試験準備等、帰国)でした。詳細は、「卒業生・修了者の進路状況」をご参照ください。

筑波大学では、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター(以下、DACセンター)と学生部就職課が連携し、キャリア形成支援活動を行っています。本学のキャリア支援体制を充実・発展させるため、各教育組織と有機的に連携し支援環境やネットワーク構築を行い、きめ細やかな学生支援を目指しています。学群1年生を対象としたフレッシュマン・セミナーや学士基盤科目「キャリアデザイン入門～世界にはばたく未来の自分～」を通じて、大学生活を積極的かつ有意義に過ごし、その後の人生設計(キャリア・デザイン)の基礎作りを寄与しています。また、大学院生に対しては大学院共通科目「博士のキャリアパス」を開設し、ロールモデルとなる方を講師に呼び、自分の未来を切り拓くヒントとなるような授業を行っています。

令和2年度の教員・公務員に関しては、令和2年度の公立学校教員採用試験が6月下旬から実施され、令和2年度の卒業生のうち教員になったものは62人(就職者の5.7%)でした。

また、令和2年度の公務員採用試験の日程は、コロナ禍の影響を色濃く受け、国家総合職が4月26日から7月5日へ、一般職が6月14日から8月9日へと大幅に延期されました。地方公務員試験のうち、東京都と特別区の試験は5月3日から7月26日へと2か月以上延期されました。令和2年度の卒業生のうち公務員(独法等も含む)になったものは131人(就職者の11.9%)でした。令和2年度は採用試験の日程が実施直前まで確定しないなか、就職課では、主に面接試験に向けた個別支援を行いました。多様な人材を確保するために、公務員試験においても人物試験の比重が高くなっています。さらに、筆記試験がない、あるいは企業と同様の試験形式を取り入れる自治体も増加傾向にあります。試験対策として、資格取得支援予備校の公務員試験対策講座を学内で開講しています。

就職の動向について

例年3月に入り新卒採用の広報解禁で採用活動が本格化しますが、令和2年の春先から新型コロナウイルス流行の影響により、企業の採用活動(会社説明会や面接など)のオンライン化が広がりました。DACセンター/就職課も、いち早く個別キャリア相談や学内合同企業説明会などの各種就職ガイダンスをオンライン化して対策し、学生への支援を止めないことを最重要課題として取り組んできました。学生部就職課ホームページ(https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/)において、コロナ禍での就職活動の最新状況やイベントの情報を伝えています。

新型コロナウイルスという誰も経験したことのない事態で、就職を取り巻く環境は大きく変化していますので、興味を持った企業の採用サイトや就職情報サイトの企業ページを確認するなど、自ら情報を取りに行くことが重要となります。教員・公務員の試験に関しても、同様です。適切に情報収集を行い、準備を進めることがコロナ禍での就職活動を乗り切る鍵になってきます。このように、就職を取り巻く環境の変化はありますが、学生の就職活動準備として、経験の棚卸や自身の強みなどを把握する自己分析や業界・企業の研究を行うことの重要性はこれまでと変わりません。DACセンター/就職課は、納得がいく就職活動ができるよう、中長期的な視点に立ったキャリア形成支援を引き続き行っていきます。

キャリア支援の取組

＜キャリア形成支援＞

DACセンター/就職課では、授業やイベント、各種情報提供、個別キャリア相談などを通じて、学生が自分自身について考えながら社会について視野を広げ、将来に向けて具体的な準備を進めていけるようサポートしています。最新情報や詳細はホームページ(https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/)にて発信しています。

＜個別キャリア相談＞

学生の皆さんの就職活動や進路選択をサポートするために、経験豊富な相談員による個別相談も行っています。将来のことや進路選択(進学するか就職するか、留学するか、インターンシップに参加するかなど)、キャリア・就職に関することなら、学年を問わずどんなことでも相談可能です。

従来、対面で相談を行っていましたが、コロナ禍により現在オンラインで相談を実施しています。

不安を少しでも解消できるようにサポートしています。



オンラインで行われる個別キャリア相談の様子



個別キャリア相談は、オンラインで簡単に予約ができます。 https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/?page_id=301

若手研究者のためのwebサロンシステム PhD×FUTURE.を開設しました

DACセンター/就職課は博士人材の支援にも力を入れて取り組んでいます。

PhD×FUTURE.は、産業界で働くことに興味関心のある、筑波大学の若手研究者(※)と企業・団体のマッチングを図るなど、その出会いの場を創出するシステムです。

※若手研究者とは「博士学位取得予定者」のことです。

若手研究者のためのwebサロンシステム

PhD×FUTURE.

ピーエイチディーフューチャー

https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/phd-future/

令和2年度卒業生・修了者の進路状況

学群・学類

Table showing career paths for graduates and completers by faculty and department. Columns include: Faculty/Department, Graduates, Advancers, Job Seekers, and Job Seekers' Internal (Company, Teacher, Public Servant, etc.).

修士課程・博士前期課程・博士後期課程

Table showing the number of students in Master's, Doctoral Preliminary, and Doctoral Postgraduate programs, categorized by faculty and department.

(注) ()内は、女子を内数で示す []は、留学生を内数で示す < >は留学生のうち女子を内数で示す

医師国家試験

第115回(令和2年度実施)医師国家試験の状況

Table showing the results of the 115th National Medical Examination, including the number of examinees, passers, and pass rates.

採用企業ランキング

Table ranking the top 5 companies that hired graduates, including company names, number of hires, and ranks.



コロナウイルスの影響で実際にイベントの会場に行き臨場感を味わうことはできませんでしたが、普段かかわる事のないサークルの方々と関わる事ができ、そのサークルの魅力をメールでやり取りをすることで深く知ることができました。広報会議メンバーになっていなかったら経験することはできなかったであろう、貴重な体験であったと思います。自分自身あまりミーティングに行けず広報会議の力となる事はできませんでしたが、このメンバーの一員として活動できたことをうれしく思います。

(文サ連広報局長 村松翔・エシス3年)

今まで「広報」という仕事には何度か携わってきましたが、広報誌の編集は初めてのことでした。この1年間で私が貢献できたことは少なかったですが、寄稿依頼のメールのやり取りを通して、相手の方に快く依頼を受けていただくためにはどのような文を送ればいいのかを何度も再考したことは、私にとって非常に貴重な経験となりました。広報会議のメンバーとなり、「紫峰の風」の制作に携われたことに感謝いたします。1年間ありがとうございました。

(文サ連広報局長 内田小稀・資源2年)



学生広報会議に参加して紫峰の風の編集に関わるようになり大学の行事やサークル活動について知ることが出来ました。コロナ禍ということもあり、満身に活動できない中での寄稿依頼を快く引き受けてくださった芸サ連の所属団体にはとても感謝しています。コロナ禍で行事の中止やオンライン化により紫峰の風も縮小版でしたが、今号からは通常通りになり特集記事を担当させていただいたのは良い経験となりました。完成時には、自分の担当したものが印刷され、皆さんに届くのだと思うと達成感を感じました。1年間紫峰の風に関わりたくさんのものを得ることが出来ました。ありがとうございました。

(芸サ連広報局長 中嶋梨花・資源3年)



編集後記ということだが、今回は本当に何もわからずただ他の編集員の方に支えてもらったという印象です。修士論文と履修の二足の草鞋のなか、紫峰の風編集は初体験で、会議もろくに参加できない状況での編集でした。紫峰の風は筑波大学新聞とはまた違って保護者や後援してくださる方々と大学を繋ぐ貴重な媒体であることをしみじみ体感しました。各編集員の方々も学業の中丁寧な態度にお仕事されていたのがとても印象的でした。なんにせよ繋ぐというのは簡単な作業ではなく、たくさんの方々の時間と心遣いがあることだと痛感し、だからこそそれが成功したときにたくさん喜びを産むのだろう。紫峰の風がそのような媒体であってくれて私も嬉しい限りです。

(芸サ連広報局長 梁安吉子・人文群人文P2年)



体育会代表として編集に携いました。私自身、コロナ禍の入学、そして進級でしたが、紫峰の風に携わることで、大学内の多くの活動を知り、そしてその中の方々と繋がることができました。

まだまだ多くの活動は制限されていますが、この制限の中でも各団体がより良い方向へと工夫を凝らしながら進んでいると知ることは、私自身の活動の原動力ともなりました。読まれる方々に各団体の一生懸命さが伝われば嬉しいです。

(体育会広報局長 小林桃子・比文2年)



今年から『紫峰の風』の編集に携わって、学生の皆さんに記事の寄稿をお願いして、頂いた原稿に目を通すたびに、Covid-19の感染拡大に伴う昨今の情勢が学生生活に与えた影響の大きさをよりひしひしと感じることが多かったです。その一方、行動が制限された中で工夫して行事や団体の文化を引き継いでいこうとする様々な取り組みも知ることができました。厳しい状況をむしろ力に変えていく前向きな姿勢を『紫峰の風』を通じて多くの人に知ってもらえれば嬉しいです。

(体育会医学広報局長 角達之介・医学3年)



昨年度の終わりから紫峰の風作成に関わり、少しづつ活動を行って参りました。主に全代会についての寄稿や執筆が主な作業ではあったものの、企画段階では全代会としての情報を提供し、貢献することができたと考えております。紫峰の風で身に着けたスキルを全代会に持ち帰り、全代会広報誌である『Campus』にもスキルを還元していく所存です。また、このように発行に関わる貴重な機会を頂いたこと、この場を借りて感謝申し上げます。

(全代会広報委員 菟場広翔・知識2年)



学生広報会議には全代会の代表として参加しました。全代会でも広報誌を作成していましたが、『紫峰の風』の筑波大学全体を見渡して、広く記事にする壮大さには驚かされました。また、学生広報会議の先輩方が、記事の構成を考え、実現していく姿にも圧倒されました。『紫峰の風』の作成に関わった経験は、今後の大学生活や全代会活動に活かすことができるでしょう。最後に、全代会の活動との両立のため、学生広報会議には積極かつ活発な活動はできませんでしたが、それでもなお、いつでも温かく迎えてくれた学生広報会議の方々には感謝申し上げます。『紫峰の風』がさらに幅広く読まれる広報誌となることを心から期待しています。

(全代会広報委員 佐藤翔哉・物理2年)

コロナ禍でも心のやり取りを—ピアサポート活動のご紹介

人間系 助教 慶野 遥香

学生相談室というと、「カウンセラーが学生の相談にのる場所」というイメージをお持ちの方が多くかと思いますが、もちろん、相談活動は私たちの業務の中心的なものです。それに加えて、本学学生相談室では、学生によるピアサポート活動も行っています。ピアサポートとは、仲間同士(ピア)の支えあい(サポート)を指す言葉です。近年様々な大学でこうした学生支援の取り組みが広がってきており、本学では2016年からT-ACTアクションプランとして、2019年から学生相談室の部門の一つとして活動しています。

もともと、中央図書館にポストを設置し、投函された何気ないつぶやきや悩み事にピアサポーターの学生がお返事を書いて掲示する、「つぶやきポスト」という活動を中心に、セミナーの開催や他大学のピアサポーター学生との交流なども行ってまいりました。拠点となる部屋を学生会館に設置し、さあこれから活動を広げていこうというところで、コロナ禍のためにそれまでの活動ができなくなり、現在はTwitter上で「マシュマロ」というアプリを使って「つぶやきポスト」と同様の活動を続けています。時に微笑ましい、また時に深刻なつぶやきに対し、学生たちは共感したり、アイデアを出しあったり、投稿してくれたのはどんな人なのか、どんな言葉を返せばよいのかと悩んだりしながら、一つ一つ時間をかけて話し合っ返事を書いています。

ワクチン接種が進み、この先の生活に少しは明るい兆しが出てきたものの、学生生活が元通りになるには、まだ時間がかかりそうです。しかし、在学している学生にとっては「学生時代」は今しかなく、不安や焦り、時間が過ぎていってしまうやせない気持ちなど、様々な思いを抱えています。カウンセリングで話を聞いていると、オンライン授業で教育の機会は確保できても、そうした気持ちを共有できるような人間関係を作りにくいと感じている学生が少なく

いことを痛感します。文字上のやり取りではありますが、「悩んでいる仲間の支えになりたい、思いを聞きたい」と願って活動している学生がいることが、投稿してくれた人はもちろん、ツイートを見ているひとりでも多くの人に伝わればよいなと思っています。また、この活動を多くの人に知っていただくことは、ピアサポーターの学生にとっても励みになります。保護者の皆様にも、学生たちの取組みをぜひ温かく見守っていただければ幸いです。

■筑波大学ピアサポートチーム

ウェブサイトはこちら



筑波大学紫峰会基金より

令和2年度 筑波大学紫峰会基金援助金支給報告

令和3年7月26日に開催された筑波大学紫峰会基金運営委員会にて、令和2年度の紫峰会基金援助金の支給について報告されました。概要は次のとおりです。

援助金項目	金額 (円)
課外教育行事援助金	217,383
課外活動団体援助金	21,300,000
特別援助金	164,500
組織助成金	5,515
育成指導補助給付	18,673
記念品特別支給	0
合計	21,706,071

特別援助金報告 ～世界オリエンテーリング選手権日本代表選手派遣遠征に参加して～

2021年7月3日から9日までチェコ共和国・Doksy周辺で開催された世界オリエンテーリング選手権に紫峰会基金援助金の支援を頂き日本代表として出場してきました。

オリエンテーリングは山野において地図に示されたポイントを回る早さを競うスポーツであり、開催される国によって全く異なる地形や植生に対応しなければなりません。チェコの森は急峻な上に巨岩や岩崖がいたるところにあり、またポイントもその岩の間に隠すように設置されています。日本では味わえないような非常にタフで難しいレースが連日続きましたが、本当にエキサイティングで私にとっては最高の日々でした。

上述の地理的ハンデに加え、オリエンテーリングは欧州が本場のスポーツであるため日本人選手が世界の舞台で戦うことはとても困難です。しかしながら私は今回の世界選手権で今後につながる結果を出すことができました。スプリント種目では決勝進出に迫り、ミドル種目では目標であった決勝進出を果たすことができました。ロング種目では日本人男子として近年における最高順位(46位)を獲得しました。世界的・対外的に見れば取るに足らない成績かもしれませんが、今後の日本オリエンテーリング界を盛り上げていくための大きな一歩であると自己評価しています。今後も後進の活動に力を貸しつつ、今回の結果をさらに更新できるよう世界に挑み続けます。

大会は新型コロナウイルスの流行により渡航が大きく制限されている中行われ、日々変化する状況や経済的な面で不安でした。そのような中で安心して遠征することができたのは筑波大学紫峰会基

金様のおかげです。サポートいただいた皆様、本当にありがとうございました。

(寄稿/オリエンテーリング部 小牧弘季・理工情報生命学術院生命地球科学研究群 山岳科学学位プログラム1年)

援助対象	オリエンテーリング部
特別援助金区分	海外遠征S
援助金額	86,500円



「ロング種目実走 22kmの長いレース最終盤、会場の声援を受けラストスパート」



「リレー種目 日本チームの1走としてヨーロッパのチームと競り合う」

桐の葉日記

今年も暑い夏が終わり、少し肌寒く感じる季節となりました。地元では雪が降ることがあまりなかったので、今でも雪が降りそうになると少しわくわくします。

ところで、私は今年で学群3年でありまして、学年末には研究室配属が控えています。そろそろ行きたい研究室を決めておきたい時期ではありますが、どの研究室も魅力的に感じているのかを慎重に選びたいと考えています。

またその後には、院試が控えています。短期間の準備で合格するのは難しいと思うので、授業やサークルの合間にコツコツと勉強を続けていきたいと思います。これまではCovid-19の影響でサークルや対面での授業があまりできていませんでしたが、現在感染者や重症者が減少傾向にあるので、少しずつこれまで通りのことができるようになってくると嬉しいです。

(文責/文化系サークル連合会広報局長 村松翔・エシス3年)

紫峰の風 第22号 2021年12月発行

発行 事業開発推進室

編集 学生部学生生活課

学生広報会議

(菟場広翔・知識2年、佐藤翔哉・物理2年、村松翔・エシス3年、内田小稀・資源2年、中嶋梨花・資源3年、梁安吉子・人社群人文P2年、小林桃子・比文2年、角達之介・医学3年)

広報部会

(河原井かれん・芸専4年、高見沢仙美・応理4年、村松真緒・社会3年)

タイトルロゴデザイン 塚本真理(芸専2016年度卒)

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

電話:029-853-5886 E-mail:gk.shihokai@un.tsukuba.ac.jp

筑波大学紫峰会基金WEBサイト

https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/shihokai/



紫峰の風送付先変更の連絡はこちら

E-mail: renkei@un.tsukuba.ac.jp 電話:029-853-2030
本号について、ご意見・ご感想をお寄せ下さい。

「総合学域群」って…?

2021年度に一期生が入学した総合学域群。どんな目的で新設されたのか、所属する学生はどんなことを学ぶのか、取材してきました!!

総合学域群新設に携わった先生方にインタビュー!

総合学域群の特徴や制度など新設に携わった先生方に聞いてみました。



山中 弘
総合学域群長
(特命教授)

総合学域群の特徴は何といっても、様々な学類の授業を履修できることです。高校生時代に得意科目だったものが自分の学びたい学問であるとは限りません。総合学域群では入学後、筑波大学の多様な学問的資源を生かし、自分の進路を1年かけて決定することが出来ます。また、履修の組み方や進路相談などアカデミックサポートセンターのサポート体制も充実しています。自由に道を選びながらも「迷子」にならないようにフォローしています。総合学域群の学生の皆さんには文系理系の枠組みや先入観にとらわれず広い視野で学び、多様な問題意識を持ってほしいと思います。

また、総合学域群の強みでもある充実したサポートを活用して、積極的に新たな分野に挑戦し、自分の可能性を模索してもらいたいです。



加賀 信広
アカデミック
サポートセンター長
(人文社会系 教授)

今年度から学生を受け入れた総合学域群は総合選抜を経て入学した学生が所属しています。教育組織ではないため他学類や学類のように授業の開講はありませんが、主に各学類が開講する約110の専門導入科目から興味のある科目を履修します。選抜区分に関係なく体育専門学群を除いた8学群24学類に移行することが出来ます。

アカデミックサポートセンターでは、アカデミックコーディネーター、アカデミックアドバイザーがキャリアや進路、それぞれの学類・専門学群の教育内容等について相談に応じ、移行の仕組みや履修計画については専門スタッフに相談することが出来ます。2年次の移行は本人の希望と成績によって決定されます。必ずしも第1希望の学類・専門学群に移行できるわけではありませんが、広い視野を持ち学修できることが総合学域群の特徴でもあります。

総合学域群生 こんな学びをしています!

総合学域群の学生の履修の様子を教えてくださいました。分野が幅広く、学際的な学びができることがうかがえます。



第1類所属のAさん

- ・ フィールド文化科学領域比較文化研究
- ・ 応用言語学講義1—a
- ・ 環境デザイン概論
- ・ 共生のための日本語教育
- ・ 都市計画入門

第2類所属のBさん

- ・ 応用理工学概論
- ・ つくばロボットコンテスト2021
- ・ 地学序説
- ・ 筑波クリエイティブ・キャンパス・ベーシック (集中講義)

第3類所属のCさん

- ・ 社会学の最前線
- ・ 生物学序説
- ・ 情報リテラシー
- ・ 発達障害と家族支援
- ・ 人体構造学
- ・ 学問への誘い
- ・ 日本国憲法

総合学域群に所属する学生さんにインタビュー!

総合学域群に入ってみての感想や良かったことや困ったことなど学生さんの声を聞いてみました。

私は幼少期にバイリンガル教育を受けていたため、小中高と異文化交流や海外研修などに参加し、将来については漠然と、国際系の仕事に従事するものと考えていました。しかし高校時代に「国際系の仕事」というあまりにも曖昧な目標に縛られて、そもそも本当に興味のあることを見つけていないままであるということに気が付きました。そこで、自分が熱を持って学びたいものに会える学際的な環境に身を置きたく、総合学域群へ進学しました。

春学期は自分の興味の赴くままに様々な分野の科目を履修しました。バイリンガル教育を受けた経験から、人間が第一・第二言語を操れるようになる仕組みや発達過程が気になったので言語学の授業を取りました。また、つくば市で日本各地から集まってきた学生たちと交流する中で、居住環境と人間の生活の関係性について知りたくなり、環境デザインや都市計画の授業も履修しました。文理を横断するように授業をとり、課題に取り組む中で、私は日本国内、さらに地方の問題について詳しく学びたいと強く感じました。「国際」を基本としていたこれまでの考え方から大きく転換したが、学んで楽しいものを発見できたし、それを導いたのは総合学域群の自由な学びを支える制度だと感じています。

一方、まずは多様な学問分野に触れたいという思いがありましたが、移行の要件を満たすことを第一に考えなければなりません。どうしても受けたいと思う授業と移行要件のコマが被っていることもあり、やむを得ず後者を選択するということがよくあります。また、学際性を意識するあまり、専門の知識が浅いものに終わってしまうと感じます。そのため自分が志望する学類に移行できたとしても、専門性という点で他の学生より遅れた状態になるのではないかと懸念しています。

第1類所属のAさん
バイリンガルという強みを活かしてかつ自分が本当にやりたいことを求めて総合学域群に進学しました。



ここでは、通常の学類よりも幅広い科目を履修し、かつそれらの科目でAやA+などの良い成績を取る必要があります。総合学域群では成績の良い人から順に学類を選べるため、全ての科目に積極的に参加し、成績をしっかりと取る必要があります。これにより、強制的に学生の視野を広げることになるのでは。そして将来の可能性を広げることにも貢献するでしょう。しかし、この成績が非常に重要になるという総合学域群の性質上、成績に関係のないものに関しては積極的に時間を割けないという現状もあります。例えば、教職免許を取得したい場合、教職科目を履修する必要がありますが、この教職科目は総合学域群が移行判定(成績)に利用する「成績点」というものには含まれないようになっています。私は今年度、教職科目をとるか否かと悩み、結局やめました。同様に、4年次の研究室配属を待たずに研究室に行き、支援金を基に研究活動をし、単位にもなるAREという制度も今年度に関しては諦めました。このように、成績以外の点について選択の際に諦めてしまうということもあるように思います。総合学域群の制度についてもまだまだ改善の余地があり、全学的に、1年生の科目はA+、A、B、C、Dの判定だけでなく、素点で成績をつけることが求められていますがまだその素点を公表する仕組みが整っていないからです。(注記:現在は公表済み)

一方で、総合学域群生用の支援室である、アカデミックサポートセンターの対応は非常に良く、季節に応じたイベントの開催や、ハイブリット型のイベントなど様々な企画を作ってくださいっており、対面での科目はほとんどない1年生にとってはありがたいです。

第2類所属のBさん
工学システム学類と迷いましたが、これからの求められる人材は幅広い学問を身につけた人だと考えて進学を決めました。



他の学類は、必修となる授業があるため、自分でどの授業を選ぶのか履修について悩むことが少ないかもしれませんが、総合学域群の学生は英語や情報など、1年次の必修科目を除き、履修がまっさらな状態から各々が履修を組む必要があります。そのため、4月上旬の入学式、新歓、ガイダンスといった新生活に慣れるだけでも精一杯な時期に、自分の人生を決めるといっても過言ではない履修登録を考えなくてはなりません。正直なところ、4月上旬は個人的に心身ともにきつかった記憶があります。

私は体育会漕艇部に所属していて、春学期ではコロナ禍で感染対策を徹底したうえで週7~9回の練習に明け暮れていました。4時半に起床して朝練後、講義を受け、家事や予習・復習をこなし、夕方の練習まで図書館で勉強する日々を送っていました。

2年の移行では、医学類を第1志望として考えています。総合学域群から医学類への移行は5人しか枠がなく、9月現在の私自身の成績はちょうど5位程度であるため、10月の全日本大学選手権後は勉強に明け暮れないといけません。やりたい夢のため、日々部活動と並行して学び続けています。

第3類所属のCさん
漕艇部で活躍しながら医者になる夢を叶えるため日々奔走中です。



全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議活動紹介

○第3回本会議

全代会では、8月6日に第3回本会議が行われ、各学類等の代表である座長団が集まって議題について話し合いをしました。今回の議題は主に2つで、「教育課程編成システムによらないシラバス公開に対する要望」と「学内で食事を提供する事業者に対するアレルギー表示の改善・実施の要望」を取り扱いました。前者は春学期の教育課程編成システム(KdB)のサーバーダウンに伴って学生が不利益を被ったことに関して、学類ごとにシラバスを公開していただくことを要望するもので、学生の履修の際の手助けになるものです。後者は大学食堂のアレルギー表示が不十分であり、利用づらいという意見に基づいたもので、だれでも気軽に学食を利用できるようにするために取り組むものです。

今回の本会議は、消毒液や体温計の準備に加え、学生生活課の方にも参加していただくなどの新型コロナウイルス感染症対策を十分に行ったうえで、今年度初の対面とオンラインの同時開催となりました。普段オンライン上で活動している全代会構成員が一同に会す貴重な機会となり、オンラインに比べ活発な議論が交わされました。

今回の2つの議題は全代会議長団から学生生活課を通して大学

に伝えられました。全代会としても、今後も議題に挙がったような学生の利益のために活動を続けていきたいと考えています。

○春学期を終えて

春学期は緊急事態宣言の発令等に伴い、ほとんどがオンラインというイレギュラーな形での全代会活動となってしまいましたが、その一方で安定したオンライン活動の基盤を作ることができたと考えております。Microsoft Teamsでの連絡系統を確保することができたほか、前年度に引き続き本会議をオンラインで開催することができ、各委員会の活動も例年通りに行うことができました。

その一方で、構成員同士の交流が少なくなってしまったことが問題となっています。現在の1年生同士の交流が希薄であることで、来年度以降の活動を引き継いでいく中で問題になります。そのような中で、第3回本会議を対面で実施できたことは大きな転換点になると感じております。秋学期は引継ぎに力を入れていくほか、構成員同士の交流を深められるようなイベントを多く開催していきます。秋学期も全代会の活動をよろしくお願い致します。

(寄稿/全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議副議長 菟場広翔・知識2年)

教育環境委員会

教育環境委員会は全学的な教育環境の維持、改善を目的として日々活動しています。教育を専門分野として学んでいる学生はもちろん、理数系の学生も在籍しており様々な分野を学ぶ学生から構成されています。週一回程度ミーティングを行い、学生からの意見をもとに教育環境に関わる問題をどのように対処するのかを検討し、対応しています。

昨年度から引き続きオンライン授業が実施される中、十分な感染症対策の上、対面とオンラインを効果的に使い分けて活動を行ってきました。春学期には全学向けに授業形態に関するアンケートを行い、学生がどのくらいの頻度で対面授業を受けているのか、それぞれの授業形態のメリットやデメリットなどの調査を実施しました。アンケート結果には切実な学生の意見が書かれており、既に大学と結

果の共有を行い、教育環境委員会として今後どのように対応していくか検討中です。私自身、多くの授業をオンラインで受けてきましたが、対面授業が少ないために大学という全国から集まった様々な人と出会い、ともに学んだり語らったりする機会が制限されている現状を残念に感じています。

今後しばらくは制限が多い状況が継続すると思われるですが、そのような状況下でも大学という、多様な関心を持つ人々と出会える場での気づきや学びの機会が少しでも増えるよう、今後も尽力していく所存です。

(寄稿/全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議教育環境委員長 渡邊由貴・国際2年)

生活環境委員会

生活環境委員会は、学生の生活環境(大学の施設や学生宿舎、食堂などの福利厚生施設、学内の交通安全、各種制度など)を改善することが目的の委員会です。

全代会の生活環境・教育環境・調査の三委員会は、教育生活環境調査という学生向けのアンケートを設置しており、大学への意見・要望や学内の問題を集めています。教育生活環境調査は教育・生活の二項目があり、当委員会の主な活動は、後者へ寄せられたものへの対応です。

対応の方法としては、学生生活課やクラス代表者会議、エリア支援室などを通じての問題の状況確認や話し合い、対応や対策の依頼などが主ですが、特に重要で解決されるべきと考えられる問題に対しては、大学への要望書の提出を行っています。要望書の提出に際しては、調査委員会にアンケートなどの追加調査を依頼すること

があるほか、本会議で承認を得る場合もあります。最近では、路面の補修及び電灯の増設の要望や、学内で食事を提供する事業者へのアレルギー表示の要望などを提出しました。

また、それらの対応の結果は、全代会のホームページ内に掲載したり、広報委員会が全代会公式アカウントでツイートすることにより、学生に周知しています。

まだまだオンライン授業は続いていますが、より多くの対面授業が再開されキャンパスの利用者が増えれば、学生から寄せられる声も多くなると思われる為、スムーズに対応していきたいと考えています。

(寄稿/全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議生活環境委員長 國分潤・エシス2年)

芸術系サークル連合会活動紹介

津軽三味線倶楽部無絃塾



練習の様子 2021年3月15日撮影

私達は月・水・土の週3回、開学記念館にて「明るく楽しく元氣よく」そして「いつも一生懸命」をモットーに現在40名ほどで和氣藹々と活動しています。

津軽三味線、和太鼓、お箏、民謡、舞踊など日本の伝統芸能を総合的に学んでおり、プロの三味線奏者の方からもご指導頂いています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、1年の集大成となるような公演が中止となったり、活動自体を自粛しなくてはならない状況になったりと、ここ2年間は思うように活動できず歯痒い思いをしています。厳しい状況は続いていますが、今できることを模索しながら学生らしく一生懸命に活動していきますので今後ともよろしく願いいたします。

(寄稿/津軽三味線倶楽部無絃塾代表 會田一葉・数学3年)

ときめき太鼓塾



練習の風景 2021年7月上旬撮影

ときめき太鼓塾は、和太鼓や篠笛の演奏を楽しむ課外活動団体です。小さなサークルですが、塾生みんなで週2回の練習を仲良く真剣に取り組んでいます。感染症流行の影響で、様々な困難もありましたが、大学関係者や保護者の方々、先輩達や新しく入ってくれた塾生達のおかげで、少しずつ今までのときめき太鼓塾の活動を行えるようになってきています。たくさんの支えに、本当に感謝しております。

今年度の新歓本祭では、事前に撮影した演奏動画を皆様にお見せする形をとらせていただきました。和太鼓の迫力やパフォーマンスの躍動感を動画で伝える難しさを感じました。

今後、撮影をする機会があればもっとうまくやりたいと思います。いまだ様々な制限がありますが、いつかたくさんのお客さん達の前で最高の公演ができるように、日々の練習に精進していきたいと思

います。(寄稿/ときめき太鼓塾塾長 青木文弥・エシス3年)

THK筑波放送協会

こんにちは。THK筑波放送協会です。今回は少しスペースをいただいで、私たちTHKの活動についてご紹介します。

THKはサークル名の通り「放送」を行うサークルです。読者の皆様は「放送」と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。ニュースを読むアナウンサーや、あるいは番組の構成を考えるディレクターを挙げる人は多いでしょう。THKでもこれらの役割を経験できます。対面活動が厳しく制限されるコロナ禍の中でも、私たちは工夫を凝らして活動を維持しようとしているところです。THKには個人での作品制作に加えて、会員同士が協力して行う映像制作・アナウンス・ラジオ制作という3種類の活動が存在します。ここではラジオ制作を取り上げたいと思います。

ラジオ制作と一口に言っても、一体何をやっているのか分かりづらいかもかもしれません。THKでは、つくば市のコミュニティFMラジオ局「ラヂオつくば」で週一回放送している29分間の番組「THKラジオ学類!」を制作しています。コロナ禍以前であれば、パーソナリティや録音を担当する会員が集まって収録を行うのですが、現在はそうするわけにはいきません。そこで、zoomと会員個人が持っているパソコン、そしてスマホに内臓の録音アプリを駆使して収録しています。このような収録には、オンライン特有の時間差が発生するなど対面とは違った大変さがありますが、毎回パーソナリティどうしの楽しい会話が生まれ、充実した放送となっています。毎週土曜日23時から、特定のアプリを使ってスマホでもお楽しみいただけます。ご都合の合う時にお聞きください幸いです。

(寄稿/THK筑波放送協会代表 布花原楓・日3年)

邦楽部



七タコンサートでの2年生による演奏 2021年7月19日撮影

今年度、非常に多くの新入生を獲得し、部の規模が2倍になりました。それに伴い楽器不足も起きたのですが、幸いにも、箏・尺八・三味線を文化庁邦楽支援事業から貸与、二胡を保護者の皆さまからの寄附金にて購入することが出来ました。誠にありがとうございます。

また、外部団体主催の七タコンサートと部内のみでの演奏記録会に取り組みました。なかなか演奏会デビューを果たすことが出来なかった20年度生ですが、やっとデビューを果たすことが出来ました。

今後の課題は、コロナ禍以降に入部した部員とのコミュニケーションをとっていくこと、また演奏会開催における部員の負担を軽減していくことだと考えております。現代表の高橋は11月末で任期を終えますが、新代表高垣・武と協力し、こうした課題に取り組んでいけたらと思います。

今後ともよろしく願いいたします。

(寄稿/筑波大学邦楽部代表 高橋奈央・比文3年)

学生の一週間

ここでは、「バイトと奨学金団体の活動」がメインである学生と「部活とバイト」がメインである学生を例に挙げ、筑波大生がどのような生活を送っているのかを紹介します。

3年 Dさん 秋学期Aモジュール (10月～11月)

医学類3年生Dさんは、バイト、奨学金団体の活動がメインの生活を送っています。テスト前はテスト勉強のために睡眠時間が削られることも多いです。医学では部活、サークル活動を含めた複数での課外活動が禁止されているので、休みの日には1人でツーリングなどを楽しむことが多いです。

	月	火	水	木	金	土	日
6	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	朝食
7	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	登山
8	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	
9	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	課題・自由時間	
10	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	課題・自由時間	
11	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	課題・自由時間	
12	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	課題・自由時間	
13	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	
14	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	課題・自由時間	
15	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	課題・自由時間	
16	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	課題・自由時間	
17	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	
18	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	
19	バイト	バイト	バイト	奨学金のイベント	自由時間	課題・自由時間	課題・自由時間
20	バイト	バイト	バイト	奨学金のイベント	自由時間	課題・自由時間	課題・自由時間
21	バイト	バイト	バイト	奨学金のイベント	自由時間	課題・自由時間	課題・自由時間
22	風呂	風呂	風呂	風呂	風呂	課題・自由時間	課題・自由時間
23	風呂	風呂	風呂	風呂	風呂	課題・自由時間	課題・自由時間
24				風呂			
1	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
2	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
3	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
4	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠

2年 Sさん 秋学期Aモジュール (10月～11月)

社会学類2年生Sさんは、部活とバイトがメインの生活を送っています。基本的には、部活やバイトのない時間で課題をこなし、空いた時間があれば趣味や遊びに使うそうです。授業は体育以外オンラインで、オンデマンド方式であれば予定によって見る時間をずらしたりすることもあるそうです。

	月	火	水	木	金	土	日
6	睡眠						
7	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	朝食・準備
8	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	部活	部活
9	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	部活	
10	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	課題・自由時間	部活	
11	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	オンライン授業	課題・自由時間	部活	
12	オンライン授業	オンライン授業	対面授業	オンライン授業	課題・自由時間	部活	
13	昼食	昼食	対面授業	昼食	昼食	部活	
14	自由時間	自由時間	対面授業	昼食	昼食	部活	
15	自由時間	自由時間	対面授業	昼食	昼食	部活	
16	オンライン授業	オンライン授業	課題・自由時間	オンライン授業	オンライン授業	課題・自由時間	
17	オンライン授業	オンライン授業	課題・自由時間	オンライン授業	オンライン授業	課題・自由時間	
18	オンライン授業	オンライン授業	課題・自由時間	オンライン授業	オンライン授業	課題・自由時間	
19	バイト	部活	部活	夕食	バイト	夕食	夕食
20	バイト	部活	部活	課題・自由時間	バイト	自由時間	課題・自由時間
21	バイト	夕食・風呂	夕食・風呂	風呂	風呂	風呂	風呂
22	バイト	夕食・風呂	夕食・風呂	風呂	風呂	風呂	風呂
23	夕食・風呂	課題・自由時間	課題・自由時間	課題・自由時間	夕食・風呂	課題・自由時間	課題・自由時間
24	夕食・風呂	課題・自由時間	課題・自由時間	課題・自由時間	夕食・風呂	課題・自由時間	課題・自由時間
1	睡眠						
2	睡眠						
3	睡眠						
4	睡眠						

紫峰ギャラリー

こちらのコーナーでは、課外活動団体の日々の活動により制作された作品の写真を掲載致します。今回は、文化系サークル連合会より図画団、芸術系サークル連合会より写真部の作品です。

図画団



「風薫」 高田あゆみ (人文2年)

その造形が好きだ。空気が流れる瞬間さえ、目が離せない。



「to アキバ」 館野奏平 (知識2年)

つくばエクスプレスを題材に描きました。使用ツールはiPadです。



「自己と他者」 岡村美紀 (創成3年)

流動する自他の境界。他を受け入れる「余白」をもったり、他と融け合ったりしながら生きていかなという願いを込めて描きました。

写真部



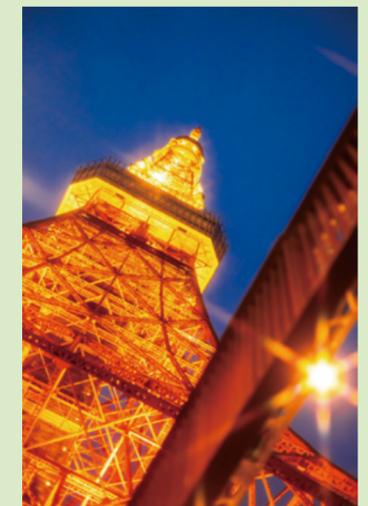
「someone」 河合瑛大 (人間総合群デザインP1年)

”あなた”が”だれか”になったとき



「旅人」 王劭宇 (人社群人文P1年)

気づかずに、もうこんなに夕焼けこれもご縁



「奥天楼」 奥野瑞希 (人文3年)

6月に滲む東京のシンボル

文化系サークル連合会活動紹介

筑波文学の会



サークル会誌の表紙 2021年4月1日撮影

筑波文学の会の主な活動は、部員が書いた作品(小説が中心ですが、詩や評論などもあります)を互いに読み合う合評と、年2回の会誌(作品集)の発行です。たまに読書会などの活動も行っています。"文学の会"という名前はやや大仰ですが、文章を色々な形で楽しみながら活動しているサークルです。構成員の中にも、小説を書くのが好きな人、これまで経験はないけれど書いてみたい人、ただ作品を読みたい人など、色々な動機の方がいます。昨年から引き続き、コロナ禍ということで、Microsoft Teamsを使ってオンラインで活動しています。また、部誌はこれまで新歓・学園祭で無料配布してきたのですが、現在は公式ツイッター(@tsukubabungaku1)での公開を試みています。ぜひご覧ください。

(寄稿/筑波文学の会会長 片田晴希・知識3年)

園芸クラブ



作業終了後、畑にて 2021年4月3日撮影

園芸クラブでは少人数ながらゆるく花や野菜を育てています。野菜や草花に詳しい人もそうでない人もどちらもいますが、興味の赴くままに大学構内の緑を感じながら活動しています。

活動場所は一の矢学生宿舎にある畑と、大学病院・平砂学生宿舎にある花壇の計3か所です。畑はそこまで広くありませんが各人が好きな野菜や花を募り、各季節の条件に合ったものを少数ながら多種育てており、今年度はサツマイモやナスといった一般的な野菜の他、独活や明日草といった一般にはあまり見ないものも植えました。花壇は一年を通して花が楽しめるように管理しており、現在は春に桜草や花梨、夏にラベンダーやマリーゴールド、秋に菊、冬にクリスマスローズや水仙が見られます。花壇は道路沿いにあるので、通り掛けには是非見ていってください。

(寄稿/園芸クラブ代表 高野航平・知識3年)

ストーリーテリング研究会



読み聞かせの練習の様子 2021年10月1日撮影

ストーリーテリング研究会は図書館や保育所で子どもたちや保護者を対象とした絵本の読み聞かせ、通称「おはなし会」を行っています。子どもたちの楽しそうに呼び掛けに反応する様子や真剣に見入る姿を見るのが私たちのやりがいです。絵本や小さい子どもたちとの交流が好きな人が多く所属しており、非常に和やかな雰囲気の中で活動しております。日常の活動では、より聞き手に伝わる読み方を目指して、練習に励んでいます。

感染症拡大以前は地域イベント等に呼んでいただく機会もあり、地域の皆様に寄り添った活動を目標にしています。今年度は度重なるおはなし会開催中止を受けて、初めてWEB会議システムを利用したオンライン上でのおはなし会も開催いたしました。

つくば市立中央図書館にて毎月おはなし会を開催させていただいているので、お時間がありましたらぜひ足を運んでいただくと励みになります。

(寄稿/ストーリーテリング研究会会長 藪田舞香・知識3年)

茶道部和敬清寂社



日々の稽古の様子 2021年5月19日撮影

茶道部和敬清寂社は、毎週水曜、金曜日に文化系サークル館一階の和室で活動しております。流派は裏千家です。水曜日は学生同士で教え合い、金曜日は先生をお招きしてご指導いただいております。先生が丁寧にご指導くださるので、初心者でもしっかりと作法を身につけることができます。

現在は新型コロナウイルスの影響でお茶会の開催ができておりませんが、日々の稽古を通じて、我が部の名前にもある「和敬清寂」の精神を学び、日常生活においても実践できるように努力しております。また、換気や道具の熱湯消毒など感染対策も徹底しております。

例年であれば5月に新緑茶会、11月に霜月茶会を開催しております。多くのお客様をおもてなしできる日が早く来ることを祈りながら、部員一同、稽古に励んで参ります。

(寄稿/茶道部和敬清寂社部長 中澤那由多・社会3年)

体育会活動紹介

バドミントン同好会



練習の様子 2021年10月7日撮影

私たちバドミントン同好会は、会員数160人を超える大規模なサークルです。技術の向上を目指したい、純粋にバドミントンを楽しみたいなど競技への向き合い方は様々ですが、互いに切磋琢磨しながら週5日の練習に励んでいます。

バド同の魅力は何と言っても豊富なイベントです。年2回の合宿や定期的で開催される部内戦などサークル内でのイベントに加え、UBF(関東大学バドミントンサークル連盟)主催の大会や早稲田大学・慶応大学・東京大学・お茶の水大学等との交流戦も行っており、サークル内だけでなく他大学との交流を深めることもできます。

現在は、新型コロナウイルスの影響で思うような活動ができないことも多くありますが、徹底した感染対策に努めながら「誰もがバドミントンを楽しめるサークル」を目指していききたいと思います。

(寄稿/バドミントン同好会渉外 松本美音・比文2年)

硬式庭球部



2021年度全日本選手権大会にて 2021年8月撮影

硬式庭球部は「学生主体」をモットーに、部の運営や練習メニューの組み立てなどを基本的に学生だけで行っています。その中で、個人戦では関東学生やインカレへの出場・上位進出を、団体戦では、男子は1部リーグ昇格、女子は王座優勝を目標に掲げ、日々練習に励んでいます。学生主体で部を運営することで、チームや個人の課題と向き合い、解決するための力を身につけることができます。また、規則に縛られず、自由な発想で日々の練習に取り組むことで、競技力向上はもちろん、人間的にも成長できるようなチーム作りを目指しています。

今現在、コロナ禍で制限はあるものの活動ができていることへの感謝を忘れず、これからも精進していきたいと思っております。

(寄稿/女子硬式庭球部主務 田中千裕・体専4年)

弓道部



全日本学生弓道選手権大会にて 2021年8月12日撮影

弓道部は開学の1973年から半世紀間存在する伝統と、令和3年度は全日本学生弓道選手権で優勝と準優勝を勝ち取れたなど実力を兼ね備えた部活です。しかし、構成人数は男子10名、女子9名と非常に少人数で活動をしているという現状もあります。少人数だからこそその団結力、更なる活躍に向けた練習や指導が行き届きやすいというメリットがある一方で、部活動をするに当たり仕事面でも人手不足になるというデメリットもあります。

また、弓道という伝統文化を次の世代に受け継いでいくという役割もあるという点で、人手が少ないというのは大きな障壁になるということも。このような障壁を持つ部活動はとりわけコロナ禍の社会の中では増加しているものと見受けられます。紫峰会様から様々なサポートがされる事で活動が維持できているので、今後とも補助を賜りますように厚くお願い申し上げます。弓道部一同、11月に伊勢神宮で行われる、学生弓道王座決定戦に向けて練習に励みます。

(寄稿/弓道部 体育会執行委員会 堆耕平・体専4年)

医学陸上競技部



自宅での筋トレ 2021年9月15日撮影

医学陸上競技部は、年に3回行われる医療系の大会での総合優勝や上位入賞を目標として活動しています。部員は経験者から大学から始めた人まで様々です。選手としてチームに点数をもたらしたり、マネージャーとして選手をサポートしたり、誰よりも大きな声で応援したりと、全員が様々な形でチームに貢献してくれています。

現在は大学からの要請に従い部活動を停止しています。しかし、そのような中においても、自宅で行えるメニューを共有したり、定期的にミーティングを開いたりして、部のつながりを保っています。コロナ禍だからできないのではなく、コロナ禍でもできること、コロナ禍だからこそできることを、部員一同自律心を持って模索しながら、部活動や大会が再開される日を心待ちにしつつ、歩みを進めていきたいと思っております。

(寄稿/医学陸上競技部主将 治田将太郎・医学3年)